

第1回「遠山郷いい川づくり」推進会議

「人・自然・文化のハーモニー！ 奏でつづける遠山川の実現にむけて



■ 目標と基本計画 ■ 目標の展開と取組 ■ 推進会議とは ■ 当面の活動

「人・自然・文化のハーモニー！ 奏でつづける遠山川」



遠山川は、「人(地域住民やこの地を訪れる人)」、「自然(山里、周辺環境、河川環境)」、「文化(歴史、祭祀、街道、城下町)」の「ハーモニー(調和)」を奏でる(舞う)、中心的な存在である。

又、唯一無二(二つとない)、過去・現在・未来にわたりそこに存在しつづけるもの。

音楽にたとえ、五線譜＝遠山川、人・自然・文化等＝音符。音楽を奏でるイメージ。

災害等により、音符どれか一つかけてもハーモニーを奏でつづけることはできないという意味を含み、奏でつづけるとは、災害や重要施設を護るなど安全安心の意味を含む。

「人・自然・文化のハーモニー！ 奏でつづける遠山川」



■言葉のもつ意味■

『人』…… 地域住民、この地を訪れる人、人の生活を守る

『自然』…… 山里、周辺環境、河川環境、動植物、景観、町並み

『文化』…… 歴史、祭祀、街道、城下町、産業、利水、利用、活動

『ハーモニー』・ 調和、一致、和合、協和、融合、和声

『奏でる』…… 演奏する、舞をまう、中心的存在、唯一無二

『つづける』…… 将来(未来)にわたって、これからもずっと、変わらず(という意味から、防災、重要施設を護る、災害に強い、安全・安心、生活を守りつづける、を含む。)

■言葉に込めたおもしろい

・「人」「自然」「文化」とは、優先度判定で上位となった「自然」、中学生の優先度判定で上位の「文化・川の利用」を含め、地域情報と河川情報の大項目を集約した意味を込めています。ことばの順序としては、中心となる「人」、それを取り巻く「自然」、さらに人と自然から生まれる「文化」としました。

・「奏で『つづける』」とは、優先度判定で上位となった「防災・重要施設を護る・災害に強い川・安全、安心」から、将来に渡って人やその生活があり続けるという意味を込めています。

■検討委員会から

これまで地域・河川情報を細かく整理してきましたが、この地域のこれまでの歴史や文化、護るべきものやその考え方などは、整理した内容すべての調和によって成り立ってきたのではないかと強く感じられ、「ハーモニー(調和)、奏で続ける」という言葉には、将来に渡ってこの地域があり続けること、今後の発展や希望などの願いを委員会として込めました。

今回の「遠山郷いい川づくり」とおして、まちづくりの中心は、川づくりにあるという新しい認識をもって、川が地域の中心的存在であることを改めて地域住民の皆様とともにこの目標に込めてはどうかと考え、目標(基本理念)を決定しました。

目標の展開

目標のキーワード	川づくりの目的・目標	取り組みの基本方針
人 自然 文化	◇ 自然・環境・景観・動植物 ◇ (自然・景観の保全) ◇ 観光・文化・歴史・利用 ◇ (地域の文化の発展と伝承)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 良好な景観や環境の保全と創出 ・ 自然で変化に富む流れの回復 ・ 近づく親しみやすい水辺空間の創出 ・ 河川空間の有効利用(高水敷の活用)
ハーモニー (調和・協働)	◇ 施設・活動 ◇ (維持管理・モニタリング)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 河川内の良好な空間の保全 ・ 河川の状態や施設の点検、維持管理 ・ 多様な主体と地域の参加、参画、協働
奏で つづける	◇ 防災、治水 ◇ (人々の安心な暮らしを護る)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 護岸未整備区間の解消 ・ 河床の復元と安定化 ・ 管理、利活用のための通路

計画のポイント

- ・ 河床の回復と安定のため効果的な箇所^①に最低限の帯工を設置
- ・ 帯工は、景観や本来のみお筋を残すよう自然石などを活用
- ・ 河川の安全度を確保した上で、空間を利活用できる高水敷を確保
- ・ 軽度の出水に対応するため最低限の対策(隠れ水制)を設置
- ・ 緩やかな覆土により水際アクセスを容易にし人が近づける工夫
- ・ 変化を許容する水際と川の流れに効果的な寄せ石などの工夫
- ・ 住民の憩いと防災アクセス機能を持たせた通路を高水敷へ復元
(自治振興センターからヘリポートまで)

目標の展開

目標のキーワード

川づくりの目的・目標

取組みの基本方針

人
自然
文化

- ◇ 自然・環境・景観・動植物 ◇
(自然・景観の保全)
- ◇ 観光・文化・歴史・利用 ◇
(地域の文化の発展と伝承)

- ・ 良好な景観や環境の保全と創出
- ・ 自然で変化に富む流れの回復
- ・ 近づき親しみやすい水辺空間の創出
- ・ 河川空間の有効利用(高水敷の活用)

ハーモニー
(調和・協働)

- ◇ 施設・活動 ◇
(維持管理・モニタリング)

- ・ 河川内の良好な空間の保全
- ・ 河川の状態や施設の点検、維持管理
- ・ 多様な主体と地域の参加、参画、協働

奏で
つづける

- ◇ 防災、治水 ◇
(人々の安心な暮らしを護る)

- ・ 護岸未整備区間の解消
- ・ 河床の復元と安定化
- ・ 管理、利活用のための通路

【ソフト面】

- 良好な景観の保全
- 近づき親しみやすい水辺空間の創出
- 河川内の良好な空間の保全
- 河川状態や施設の点検
- 多様な主体と地域の参画・協同・研究・啓発・広報・教育
- 管理、利活用のための通路管理、活用

遠山郷いい川づくりの目標

「人・自然・文化のハーモニー！ 奏でつづける遠山川」実現のために

ハード面

- 詳細設計に基づく工事の実施
(平成25年度概ね5年間)

建設事務所工事

ソフト面

- 情報共有、情報発信
- モニタリング等
- 維持管理（保全）

地域住民主体

具体的な取組

- 目標の基本方針を達成するための具体的な取組
- 特に地域住民の積極的な関わりを持った取組

◇ 「ハーモニー」＝「協働」（目標を共有し共に力を合せて活動すること）

- ・ 景観等の維持及び管理（草刈り、雑木除去、河畔林管理、清掃等）
- ・ 長野県「川のアダプトプログラム」への参画等
- ・ 研究、啓発、活動、広報、教育

◇ 奏でつづける＝「持続性のある取組」

- ・ 河川状況のモニタリング（工事中・出水後・定期的）
- ・ 施設等の点検（危険箇所、健全性の点検確認）
- ・ 修繕等（小規模、大規模）

遠山郷いい川づくりの目標

「人・自然・文化のハーモニー！ 奏でつづける遠山川」実現のために

【 提 案 】

「遠山郷いい川づくり」会議の常設

＜活動内容＞

- 目標の具現化に向けた取組
(取組の基本方針に示された内容)
- 過去の災害の啓蒙
- 広報、情報提供、連携、教育
 - 検証、評価
- 将来計画（修繕計画等）

遠山郷いい川づくりの目標
「人・自然・文化のハーモニー！ 奏でつづける遠山川」



平成24年度「遠山郷いい川づくり」会議で議論、意見交換を行い会議としてとりまとめた川づくりの目標

目標実現のための活動
活動主体：「遠山郷いい川づくり」“推進”会議

- ・ 前回同様、様々なジャンルの地域を代表する方で構成
- ・ 「いい川づくり」を「まちづくり」の一つに位置づけ
- ・ 目標実現のため、様々な活動の実施主体
- ・ 長野県河川愛護活動支援事業の活用（登録）
- ・ 全国へ向けた情報発信、学習・教育の場

「遠山郷いい川づくり」推進会議

【基本理念】

いい川づくりの目標である

「人・自然・文化のハーモニー！ 奏でつづける遠山川」
を押し進める組織

■メンバー（委員構成）

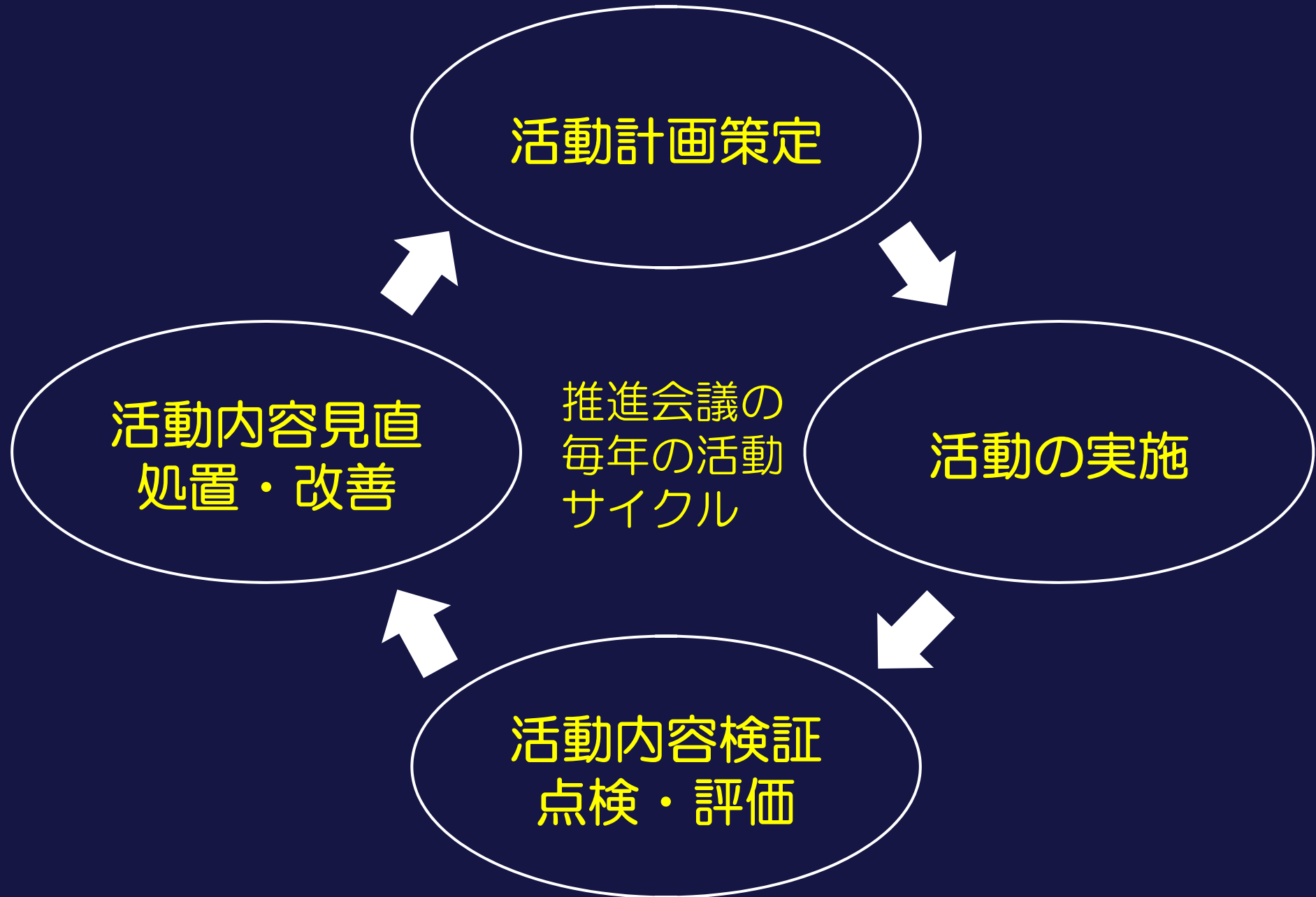
いい川づくりを推進させるため、地域の各界の代表者で構成（前回会議メンバーの他、教育の視点から保育園、小中学校を追加）

■規約（進め方の約束）

今後検討し、次回以降意見交換予定

■リーダー（委員長？ 議長？）

今後検討し、次回以降意見交換予定



■平成25年度工事の実施

- ・ 実際の工事現場を見て調査と研修
- ・ 次年度以降のモニタリングのための研究

■河川愛護活動の実施

- ・ 河川内のゴミ拾い、草刈り等の実施
- ・ 河畔林（河津桜の手入れ）＜間引き・移植＞

※県新規事業の「わがまちの川」美化事業の実施

■推進会議の進め方について

- ・ 規約やリーダーの決定

■平成26年度の活動計画

- ・ 具体的な活動計画案の策定